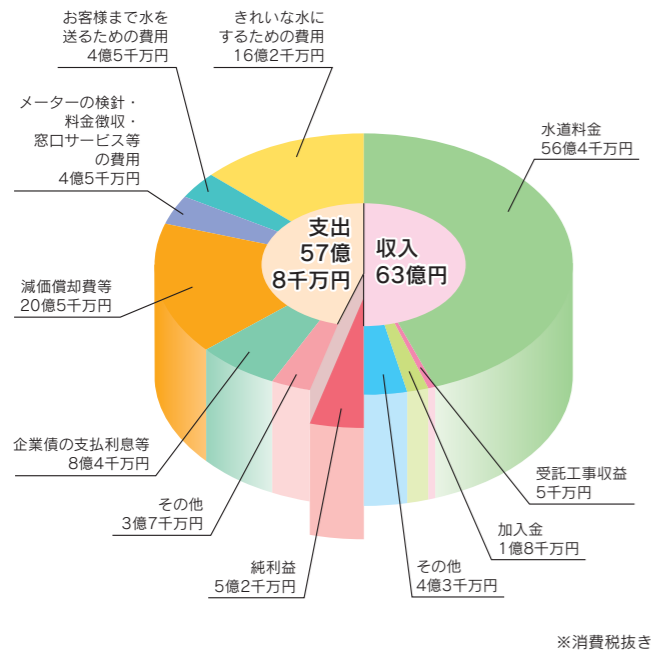


# 水道事業会計

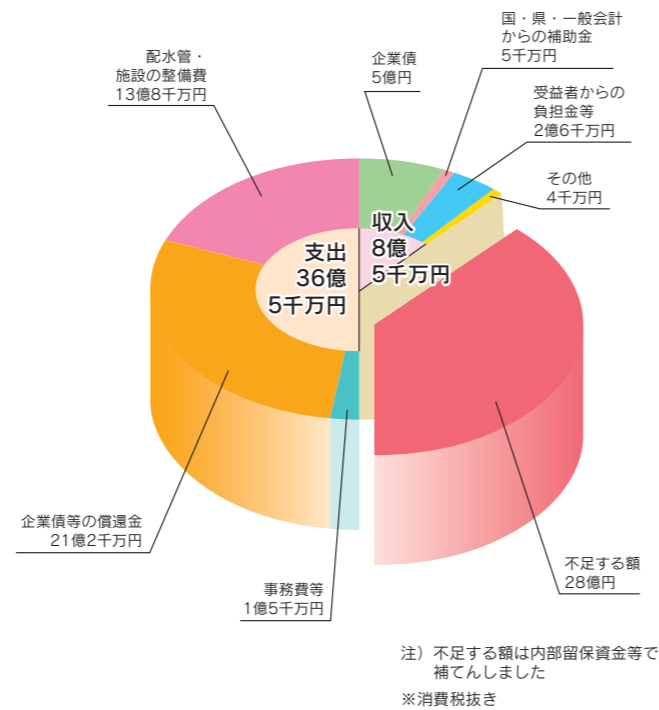
## 収益的収入・支出

水道水を作り、家庭などに送り届けるため、水道管や浄水施設の維持管理に必要な経費と財源です。



## 資本的収入・支出

水道管の布設や、処理施設を更新するために必要な経費と財源です。



### 20年度の事業経営について

水道水の安定供給と災害に強い水道づくりのための各種整備事業を行うと共に、未納料金の収納対策や高金利の企業債の繰上償還を行うなど財政の健全化にも取り組んできました。20年度においては、給水人口、給水戸数は増加したものの、

有収水量が家庭用・業務用・公共用の各用途で減少しました。そのため料金収入は前年に比べてマイナスとなりましたが、支出の抑制に努めてきたことで、約5億2千万の純利益を計上しています。

#### 前年度との比較

	平成20年度	平成19年度	比較	
			増減	比率 (%)
給水人口 (人)	339,969	339,254	715	100.21
給水戸数 (戸)	137,786	137,075	711	100.52
年間有収水量 (m <sup>3</sup> )	43,200,728	44,074,664	△ 873,936	98.02
総収益 (千円)	6,301,026	6,335,814	△ 34,788	99.45
総費用 (千円)	5,784,991	5,927,210	△ 142,219	97.60
供給単価 (円)	130	130	0	100.00
給水原価 (円)	129	132	△ 3	97.73

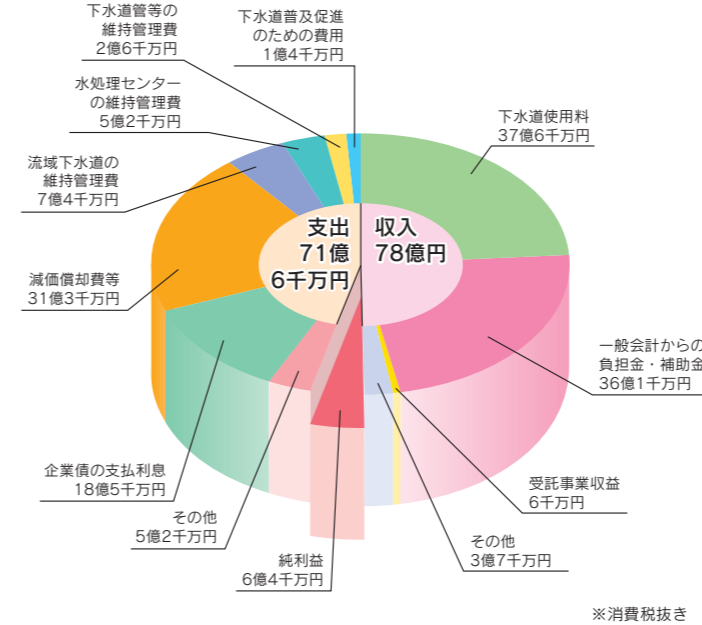
#### ※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・水道料金収入の対象となった水道水の1年間の水量
- ◆ 供給単価・・・1 m<sup>3</sup>当たりの水の販売単価
- ◆ 給水原価・・・1 m<sup>3</sup>当たりの水を供給するための費用
- ◆ 減価償却費・・・水道事業(下水道事業)を運営していくため新たな水道施設に使ったお金を、定められた耐用年数に応じ回収する方法で、主として古くなった施設の更新や改良のための資金のこと。

# 公共下水道事業会計

## 収益的収入・支出

家庭などからの汚水をきれいな水にして再び川に戻すため、下水道管や処理施設の維持管理に必要な経費と財源です。

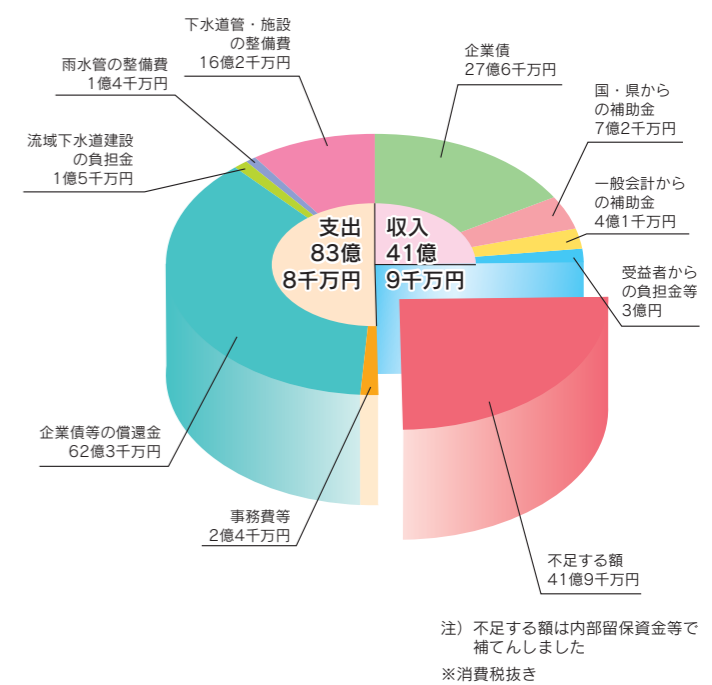


### 20年度の事業経営について

前年に引き続き、城南雨水滞水池建設事業、未整備地区の管渠整備などの事業を進めながら、未納者対策、未水洗化世帯への普及促進など収益の向上に力を注ぎました。高金利の企業債を繰上償還したことで支払利息が減少し支

## 資本的収入・支出

下水道管の布設や、処理施設を更新するために必要な経費と財源です。



#### 前年度との比較

	平成20年度	平成19年度	比較	
			増減	比率 (%)
水洗化人口 (人)	235,655	232,883	2,772	101.19
水洗化戸数 (戸)	98,868	97,629	1,239	101.27
年間有収水量 (m <sup>3</sup> )	29,752,752	29,918,462	△ 165,710	99.45
総収益 (千円)	7,800,852	7,628,313	172,539	102.26
総費用 (千円)	7,163,711	7,196,307	△ 32,596	99.55
使用料単価 (円)	132	132	0	100.00
処理原価 (円)	151	163	△ 12	92.64

#### ※用語の説明

- ◆ 年間有収水量・・・下水道使用料の徴収の対象となった汚水量など費用負担者が明確になっている1年間の水量
- ◆ 使用料単価・・・1 m<sup>3</sup>当たりの下水道の使用料
- ◆ 処理原価・・・1 m<sup>3</sup>当たりの汚水をきれいな水にするための費用
- ◆ 流域下水道・・・複数の市町村域にわたる広域的な下水処理施設のこと。高崎市は、12市町村を処理区域とする「利根川上流流域下水道(県央処理区)」に入る。